

第1回スポーツクリニック研究会研修報告



2009年11月11日～12日東京国際フォーラムにて開催された、『第1回スポーツクリニック研究会』に参加しました。参加メンバーは江本院長、湯朝副院長、原理学療法士、宇野理学療法士、大久保看護師です。

Dr.K.Donald Shelbourne,MD

今回、関節鏡手術の世界 No.1 ドクター 『K.Donald Shelbourne,MD (ドナルド シェルボーン)』が招かれ4演題の講演が行われました。

K.Donald Shelbourne,MD は米国インディアナポリス在住のドクターで、世界で最も早期にスポーツクリニックを設立されました。また膝前十字靭帯の手術経験を世界で最も多くもトップ医師の一人です。専門は、整形外科および関節鏡手術。膝靭帯再建とリハビリテーションで高名。オープンによる前十字靭帯の対側性 ACL 再建術を開発し ACL 再建を早めるリハビリテーション・プロトコルを開発されたドクターです。

< 講演内容 >

講演会 1 日目 11月11日 18時30～21時

演題1「Rehabilitation to Achieve Knee Symmetry:Effective Treatment for Many Knee Conditinos」膝を対称にするためのリハビリ：多くの膝疾患の有効な治療

演題2「History of my practice and my outlook of the future」
25年に及ぶACL損傷からの治療への戦いと今後の展望

講演会 2 日目 11月12日 18時30～21時

演題3「ACL reconstruction with patellar Tendon autograft-mini-arthrotomy technique」膝蓋腱自家移植ミニ関節切開テクニックによる ACL 再建

演題4「What I ve learned about the ACL」
ACL 損傷治療から得た外科医としての医療サービス

デモンストレーション 問診・触診・診察・診断



AR-Ex Medical Group(アレックス メディカル グループ)

Dr. Shelbourne また11月12日は今回の講演会を主催された医療法人アレックスグループの施設である長野県の『佐久平整形外科クリニック』、『上田整形外科クリニック』の見学も行きました。



<感想>

論文でしか知り得なかった世界の Dr. Shelbourne を実際に目の前にして、第一の感想は「本当なんだ！」という事でした。我々が使用している ACL 再建術後のプロトコルは、Dr. Shelbourne のそれとはかけ離れていて、実際にこの時期にこのような動きは出来ないだろうと思っていました。しかし Dr. Shelbourne の手術では可能で、それには明確なエビデンスがあり納得しました。4000例のも手術を行い、そのフォローアップが出来ているからこそ説得力の有る講演でした。またアレックスグループの施設見学、スタッフの方との交流を通して、医療人としての姿勢を改めて考えさせられました。今回の経験は、良い医療を提供するためには自分のスキルアップが如何に重要か、自分自身のモチベーションの向上に繋がりました。このような機会を与えて下さったアレックスグループの皆様に感謝します。

理学療法士 原

今回講演会に参加するにあたり英語のスピーチであるため、不安いっぱい参加したのですが、会場に行き資料をもらおうと英文と翻訳された2つ資料が入っていました。この講演会を主催されたアレックスグループのスタッフで全て翻訳し準備をおこなった事を聞き驚きました。そして、この講演会を意義のあるものにしたいという意欲とスキルアップの気持ちが強く伝わってきました。この資料のお陰で英語が分からない私にでも講演内容を理解でき、有意義なものになりました。特に印象的だった事は、Dr が専門化していくなかで、理学療法士にも膝専門の理学療法士が必要ではと話されていました。医療を提供するうえでチームワークが大事であるため、Dr・理学療法士だけではなく、NSも専門性を磨く事はすごく大事であると再認識させられ、いい刺激となりました。

看護師 大久保

今回のスポーツクリニック研究会は2日間開催されましたが、私は1日目の Dr. Shelbourne による「膝を対称にするためのリハビリ：多くの膝疾患の有効な治療」、「25年に及ぶ ACL 損傷からの

治癒への戦いと今後の展望」の2講演に参加させて頂きました。研究会には多くの施設から参加者が来られており活気的なものでした。講演の内容としてはDr.Shelbourneの迫力とオーラに圧倒され、治療に対する信念が伝わってきました。自分自身もDr.Shelbourneのように治療に対する自信を持てるようによりいっそうの努力が必要だと感じました。まだまだDr.Shelbourneの迫力に圧倒されてばかりの自分ですが、いつかは自信を持って意見や質問を言えるようになりたいと思いました。会場には理学療法士も多くいましたが、多くの理学療法士が上を目指してがんばっていることを感じ身が引き締まる思いでした。とても刺激のある一日でした。この経験を大事にし、頑張っていきたいです。

理学療法士 宇野